

令和5年度 中学部 1年 ( II課程 A類型 aグループ ) 国語科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
4/140	中1年 1a①グループ 4名 1a②グループ 4名 1a③グループ 5名		「こくご☆☆☆」/「ことばのきまり1年下」等

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等  
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技)・日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむ事ができるようにする。(中1段階) (思判表力)・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。(中1段階) (学・人)・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。(I段階)			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1学期	7	(知及技) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表すはたらきや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(中1段階ア(7)) (思判表力) 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すことができる。(中1段階A聞くこと・話すこと工) (学・人) 相手に届く声量で発表をしようすることができる。(中1段階)	(知・技)自己紹介でお互いのことを知ることができることを理解している。 (思・判・表)好きなことや得意なことを考えて、自己紹介ができています。 (主学)相手に聞こえる声量で自己紹介をしようとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・自分のことを知ってもらおう 「かんげいかい」	・相手に伝えたいことを考え、自己紹介を行う。(知及技に関する活動) ・相手の自己紹介を聞いて、分かったことを発表したり分からないことを質問したりする。(思判表力に関する活動)  第1時～3時(「知・技」の評価) ・自分について考えたり、伝える内容を選んだりする。 第4時～7時(「思・判・表」「主学」の評価) ・相手の自己紹介を聞く。 ・声ののさしを学習し、相手や空間を意識した声量で自己紹介を行う。
	10	(知及技) 発声や声の大きさに気を付けて話すことができる。(中1段階ア(1)) (思判表力) 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めることができる。(中1段階A聞くこと・話すことイ) (学・人) 伝えたいことを積極的に考えようとする事ができる。(中1段階)	(知・技)発声や声の大きさを意識して話している。 (思・判・表)発表する内容や事柄を選び、考えている。 (主学)楽しかったことを考えたことを言葉で伝えようとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・楽しかったことを伝えよう 「たのしかったえん足」	・聞き手を意識して出来事の発表を行う。(知及技に関する活動) ・教科書の場面注目し、どのような場面か気持ちかを考える。 ・休みの日や学校生活で楽しかったことや悲しかったことなどの自分自身の出来事を思い出し、話す内容を考える。(思判表力に関する活動)  第1時～8時(「思・判・表」「主学」の評価) ・教科書の絵や吹き出しを見て、どのような場面かを伝える。 ・出来事を5W1Hで思い出す。 第9時～10時(「知・技」の評価) ・相手に顔を向けて発表する。 ・相手に届く声で発表を行う。
	12	(知及技) 語のまとまりに気を付けて音読することができる。(中1段階ア(4)) (思判表力) 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。(中1段階C読むことア) (学・人) 声の調子を工夫して登場人物に合う声で音読をしようすることができる。(中1段階)	(知・技)語のまとまりを意識して音読している。 (思・判・表)情景や台詞を手掛かりに、場面の様子を想像している。 (主学)それぞれ与えられた役のイメージに合う声の高低や速度を調整して音読をしようとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・工夫して読んでみよう 「三びきの 子ぶた」	・句読点を意識して音読を行う。(知及技に関する活動) ・話の順序や登場人物の行動を整理する。挿絵を手掛かりに、場面や登場人物の行動を想像する。(思判表力に関する活動)  第1時～5時(「知・技」の評価) ・句読点や登場人物の台詞を意識して音読を行う。 第6時～8時(「思・判・表」「主学」の評価) ・整理したことや想像したことを言葉で表現する。 ・与えられた役に合う声の高低や速さを工夫して音読を行う。
	15	(知及技) 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。(中1段階ウ(ウ)ア) (思判表力) 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。(中1段階B書くこと工) (学・人) 学んだカタカナを日常生活で使おうとすることができる。(中1段階)	(知・技)カタカナの形を確認しながら、丁寧に書くことができている。 (思・判・表)カタカナで表現された言葉の間違いに気付き、訂正している。 (主学)身の回りからカタカナで表記されるものを見つけようとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・カタカナに親しもう 「かたかなをよもう」 「かたかなをかこう」	・ひらがなで書かれた言葉をカタカナで書いたり、カタカナを声に出して読んだりする。(知及技に関する活動) ・一文字ずつ、または一単語ずつ確認しながら正しく表記されたものを考える。(思判表力に関する活動)  第1時～6時(「知・技」の評価) ・示したカタカナを読んだり、指示した言葉をカタカナで書いたりしている。 第7時～12時(「思・判・表」「主学」の評価) ・身の回りからカタカナで表記されているものを見つけている。
	14	(知及技) 長音、拗音、促音、助詞の正しい読み方や書き方を知ることができる。(中1段階ア(ウ)) (思判表力) 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすることができる。(中1段階C読むこと工) (学・人) 興味のある乗り物や植物の特徴を調べて伝えようすることができる。(中1段階)	(知・技)長音、拗音、促音、助詞を気を付けて読むことができている。 (思・判・表)それぞれの乗り物や植物の特徴を捉えている。 (主学)選んだものの特徴を持って調べようとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・どんなものか考えよう 「のりもの」「花」	・一文字ずつ着目させ、書かれている内容を確認する。(知及技に関する活動) ・乗り物や植物をそれぞれ比較して違いを見つける。(思判表力に関する活動)  第1時～14時(「知・技」の評価) ・文の内容や身の回りの乗り物と植物から特徴を興味を持って探している 第1時～14時(「思・判・表」「主学」の評価) ・乗り物や植物の特徴を言葉や身振りで伝える。
2	12	(知及技) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(中1段階ウ(7)) (思判表力) 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞きたいことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えることができる。(中1段階A聞くこと・話すことア) (学・人) 言葉の響きを味わい、リズムをつけて音読しようすることができる。(中1段階)	(知・技)言葉の重なりや擬音語を意識して、リズムを読んで味わっている。 (思・判・表)登場人物の行動や物語の順序を理解している。 (主学)出番のタイミングに合わせて音読をしていたり、言葉のリズムに合わせてペープサートを動かしたりしようとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・ペープサートを使って話そう 「おじいさんとねずみのおはなし」	・登場人物の台詞と地の文の読み方を分けて読む。 ・言葉の重なりや擬音語に着目させ、読む速さを変えながら読む。(知及技に関する活動) ・場面ごとに様子や登場人物の行動を整理する。(思判表力に関する活動)  第1時～5時(「思・判・表」「主学」の評価) ・言葉の意味を知る。 ・登場人物の行動と場面の様子を考えて答えている。 第6時～12時(「知・技」の評価) ・言葉の響きやリズムを繰り返して味わっている。

学期	10	(知及技) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりして、季節に応じた表現があることを知っている。(中1段階ウ(イ)) (思判表力) 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(中1段階B書くことイ) (学・人) 年賀状に相応しい賀詞や内容を考えて書くことができる。(中1段階)	(知・技) 年賀状を書く意味を理解し、新年に相応しい賀詞や内容を書いている。 (思・判・表) ハガキのスペースに応じて書く内容を考えることができる。 (主学) 年賀状に相応しい内容を書くとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・「手がみをかこう～年賀状の書き方」	・季節に応じて様々な手紙の種類があることを学ぶ。 ・年賀状の書き方のマナーやルールを学ぶ。(知及技に関する活動) ・年賀状を書く相手を選び、伝えたい事柄を考えて書く。(思判表力に関する活動) 第1時～3時(「知・技」の評価) ・様々な手紙の種類を答えられる。 ・年賀状の書き方を理解している。 第3時～10時(「思・判・表」「主学」の評価) ・新年に相応しい賀詞を選んでいる。 ・新年に頑張りたいことを考えて書いている。
	20	(知及技) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(中1段階ウ(ア)) (思判表力) 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめることができる。(中1段階B書くことア) (学・人) 詩から想像した風景や感想を言葉で表現しようすることができる。(中1段階)	(知・技) 歌詞に出てくる言葉に着目し、風景を想像している。 (思・判・表) 冬をテーマに経験したことや考えたことを詩に表現している。 (主学) 想像したことや感想を言葉や身振りで伝えようとしている。 【評価資料】学習プリント、作品、活動の様子で評価する。	・冬にふれよう 歌詞「雪やこんこん」「たき火」	・冬の歌の歌詞の言葉に着目し、風景を想像する。(知及技に関する活動) ・自分が経験したりイメージする冬を言葉や文字で表現する。(思判表力に関する活動) 第1時～6時(「知・技」の評価) ・取り上げた歌詞の言葉の意味を知る。 ・冬を表している言葉を詩から探している。 ・歌詞の風景を言葉で伝えている。 第7時～20時(「思・判・表」「主学」の評価) ・冬をイメージする言葉を挙げる。 ・冬の言葉からどのようなことを思ったのかを言葉や文字で表現する。
3 学期	8	(知及技) 読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知っている。(中1段階ウ(エ)) (思判表力) 文章を読んでわかったことを伝えたり、感想を持ったりすることができる。(中1段階C読むことエ) (学・人) 調べたいことや気になっていることを本を使って調べようすることができる。(中1段階)	(知・技) 絵本や図鑑、雑誌など様々な種類の本があることを知り、手にしている。 (思・判・表) 調べたことや分かったこと、感想を周囲へ伝えている。 (主学) 調べたいことを複数の書籍を用いて調べている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・としよつへ行こう 「本をさがそう」	・図書室にある本がどのようなものがあるかを見たり聞いたりする。(知及技に関する活動) ・虫や花について図鑑を用いて調べ、分かったことや感想を発表する。(思判表力に関する活動) 第1時～2時(「知・技」の評価) ・手に取った本の内容を教師や友達に伝える。 第3時～8時(「思・判・表」「主学」の評価) ・虫や花の知りたいことを図鑑を使って探している。
	14	(知及技) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うことができる。(中1段階ア(カ)) (思判表力) 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめることができる。(中1段階B書くことア) (学・人) ていねいな言葉で文を書くことができる。(中1段階)	(知・技) 話す時と書く時の言葉の違いを理解している。 (思・判・表) 自分が経験したことの内容を考えて書いている。 (主学) 「です・ます」を使って文を書くとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・ていねいな言葉を使う 「文をかこう」 「えにつきを かこう」	・話し言葉と書き言葉の違いを学ぶ。(知及技に関する活動) ・学校生活や休日の出来事を思い出し、文を書く。(思判表力に関する活動) 第1時～6時(「知・技」の評価) ・書き言葉と話し言葉の違いを区別できている。 ・文を書き言葉に直している。 第7時～14時(「思・判・表」「主学」の評価) ・出来事の内容が伝わる内容で書いている。
	8	(知及技) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くことができる。(中1段階ウ(ウ)イ) (思判表力) 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。(中1段階B書くことエ) (学・人) 表を見ながら簡単なローマ字を読もうとすることができる。(中1段階)	(知・技) ローマ字の字形を捉えながら、書くことができる。 (思・判・表) 見本と自身が書いた文字を比べて、違いを訂正しようとしている。 (主学) ローマ字の表を確認して読もうとしている。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・ローマ字を知ろう	・ローマ字が何かを学び、五十音を書く。(知及技に関する活動) ・ローマ字表を見ながら、簡単な単語を読む。(思判表力に関する活動) 第1時～7時(「知・技」の評価) ・見本を確認しながらローマ字の五十音を書いている。 第7時～14時(「思・判・表」「主」の評価) ・ローマ字表を確認して、単語を読んでいる。
10	(知及技) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くことができる。(中1段階ウ(ウ)イ) (思判表力) 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くことができる。(中1段階B書くことウ) (学・人) 学習した漢字や言葉を意欲的に遣おうとすることができる。(中1段階)	(知・技) 字形を性格に捉え、バランス良く書けている。 (思・判・表) 語句の意味を理解して、文で使っている。 (主学) 日常生活や学校生活のことを短文で表している。 【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。	・学習した漢字や言葉を使ってみよう	・プリントやアプリで学習した漢字や語句を復習する。(知及技に関する活動) ・日常生活や学校生活のことを短文で表し、漢字やカタカナで書く。(思判表力に関する活動) 第1時～12時(「知・技」の評価) ・学習した漢字や語句を丁寧に書いている。 第1時～12時(「思・判・表」「主学」の評価) ・学んだ漢字や語句を使って短文を作っている。	
留意点 引継ぎ等	<p>・創作詩に関しては、中学部の国語科で取り組み2月の面談時期に掲示しているため、2学期までの単元に設定し取り組む。一年生で使用する教科書「こくご☆☆☆」に詩は掲載されていないため、副教材として適切な詩教材か他学年で扱わない☆本の詩を用いる。</p> <p>・ローマ字を各学年で取り扱う。1年時には、50音表記とローマ字読み。2年時では、名前や身の回りの物をローマ字で書くことを学習する。</p> <p>・手紙の書き方(暑中見舞い・年賀状・寒中見舞い・お礼)は、学年ごとに柔軟に取り組む。</p>				

令和5年度 中学部 1年（Ⅱ課程A類型bグループ）国語科 年間指導計画

単位数 ／配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
4 ／140	1年 1b①グループ 6名 1b②グループ 5名		「こくご☆☆☆」／「ことばのきまり1年下」等

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等  
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技)・日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。(中学部1段階) (思判表力)・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。(中学部1段階) (学・人)・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。(中学部1段階)			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	14	(知及技)発音や声の大きさに気を付けて話すことができる。(中1段階ア(イ)) (思判表力)自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すことができる。(中1段階A聞くこと・話すこと工) (学・人)互いの話に関心を持ち、話したり答えたりしようすることができる。	(知・技)正確な発音や適切な声の大きさを意識している。 (思・判・表)相手により伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方、相手を見る視線など、表現を工夫している。 言葉の抑揚や強弱、間の取り方、相手を見る視線など、相手や目的に応じた話し方で話そうとしている。 (主学)積極的に友だちの話を聞き、質問したり応答したりしようとしている。 【評価資料】発表発言、活動の様子の観察で評価する。	単元1 よく聞いて伝わるように話そう 「かんげいかい」	・発音や声の大きさに気を付けて話すことを理解する。(知及技に関する活動) ・簡単な自己紹介の内容や慣用的に用いられている言い方を知り、自信を持って話す。(思判表力に関する活動)  第1時～第4時(「知・技」の評価) ・こくご☆☆☆p10,p11を基に、相手に内容を正確に伝えるために、発声や声量に注意しながら話す。 ・姿勢や口形などにも注意する。 第5時～第14時(「思・判・表」「主学」の評価) ・こくご☆☆☆p9を参考にしながら、自己紹介に必要な事柄や、慣用的な言い方を理解する。 ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方、相手を見る視線など、表現の工夫について考える。 ・相手に伝わる話し方で、自己紹介をする。 ・質問したり応答したりして、相手に伝わったかどうかを振り返り、生徒同士で確認し合う。
	16	(知及技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。(中1段階ウ(ウ)㊦) (思判表力)書いた語句や文を読み、間違いを正すことができる。(小学部3段階B書くこと工) (学・人)日本語の表記に関心を持ち、文字を書こうとすることができる。	(知・技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形を整えて書いている。 (思・判・表)一語一句または一文を丁寧に読み返し、間違いに気付いて正している。 (主学)進んで日本語の音節と文字の関係に関心を持ち、書き表そうとすることができる。 【評価資料】学習プリント等の記述事項、活動の様子の観察で評価する。	単元2 正しく読み書きしよう 「ひらがなを よもう」 「ひらがなを かこう」	・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、似ている文字の形に注意して平仮名を丁寧に書く。(知及技に関する活動) ・文字の正しい読み方や書き方を確認する。(思判表力に関する活動)  第1時～第4時(「知・技」「主学」の評価) ・こくご☆☆☆p82のように、姿勢や筆記具の正しい持ち方を確認する。 ・手本を見て、注意する点を確認する。 ・なぞり書きまたは視写により正しく書く。 ・拍を取りながらモーラを確認し、表音文字である平仮名の音節と文字の関係に気付く。 第5時～第16時(「思・判・表」の評価) ・こくご☆☆☆p20～21,83～85で表記している文字や、自分や身近な人や物の名前、生活の中で見ることの多い語句や文を正確に書く。 ・書いた語句や文を見直し、自分や周りの人が読むことができるように、文字の形を整えて書き直す。
	14	(知及技)長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ることができる。(中1段階ア(ウ)) (思判表力)語や語句の意味を基に内容の大体を捉えることができる。(中1段階C読むことイ) (学・人)言葉に関心を持ち、語彙を豊かにしようすることができる。	(知・技)長音、拗音、促音、撥音の規則性に気付き、読み方を理解している。 (思・判・表)語や語句の意味を把握し、それぞれの特徴を捉えている。 (主学)進んで語や語句を確認したり文章を読んだりして、語彙を増やそうとしている。 【評価資料】音読、学習プリント等記述事項、活動の様子の観察で評価する。	単元3 説明する文章を読もう 「のりもの」 「花」	・長音、拗音、促音、撥音の読み方に注意して、正確に音読する。(知及技に関する活動) ・語や語句の意味に着目し、それぞれの特徴を捉える。(思判表力に関する活動)  第1時～第4時(「知・技」の評価) ・こくご☆☆☆p36～39の写真や絵を示し興味関心を高めた後、本文の文字を追って読む。 ・繰り返し音読し、長音、拗音、促音、撥音、助詞等を正しく読む。 第5時～第14時(「思・判・表」「主学」の評価) ・「しんかんせん」「ひこうき」、「たんぼぼ」「ひまわり」の特徴を読み取る。 ・他の乗り物や花の名称や特徴を、本や図鑑で探して調べる。 ・それぞれの特徴を表す語や語句に関連する他の表現、慣用句や熟語などを確認する。

2 学 期	18	<p>(知及技)身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(中1段階A(ア))</p> <p>(思判表力)見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えることができる。(中1段階A聞くこと・話すことウ)</p> <p>(学・人)言葉を使って、自分の気持ちや意見等を相手に伝えようとする可以尝试。</p>	<p>(知・技)日常的に用いている言葉には、出来事や事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。</p> <p>(思・判・表)身近な出来事や自分が経験したことを振り返り、伝えたい事柄を順序立てて考えている。</p> <p>(主学)意欲的に言葉を使い、適切に表現しようとしている。</p> <p>【評価資料】学習プリント、発表発言、観察等。</p>	<p>単元4 出来事や経験したことを伝えよう 「たのしかった えん足」</p>	<p>・教師や生徒同士のやり取りを通して、言葉により物事の内容を表すことができることに気付く。(知及技に関する活動)</p> <p>・見聞きしたり経験したりした事実や自分の気持ち、意見、人への伝言などを話すために、伝えたい事柄を順序立てて構成する。(思判表力に関する活動)</p> <p>第1時～第6時(「知・技」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p12～15のように、学校行事の中から生徒の経験した題材を取り上げ、教師や生徒同士でやり取りをして出来事を振り返る。</p> <p>・思い出したことやそのときの気持ちなどを共有する。</p> <p>第7時～第18時(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・出来事や経験を具体的に振り返り、思い出したことや伝えたいことについて考える。</p> <p>・内容や表現方法、相手に伝えるための工夫等を意識し、順序立てて言葉で表現する。言葉での表現が難しい場合は、話型を示したり、写真カード及びタブレット型端末等を活用して、思いを表現する。</p>
	20	<p>(知及技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。(中1段階ウ(ウ)㉔)</p> <p>(思判表力)自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。(中1段階B書くこと工)</p> <p>(学・人)日本語の表記に関心をもち、文字を書こうとすることができる。</p>	<p>(知・技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形を整えて書いている。</p> <p>(思・判・表)書いた語や語句を丁寧に読み返し、正しいもの書き直そうとしている。</p> <p>(主学)進んで日本語の音節と文字の関係に関心をもち、書き表そうとしている。</p>	<p>単元5 ひらがなの違いを見比べよう 「かたかなを よもう」 「かたかなを さがそう」 「かたかなを かこう」</p>	<p>・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、似ている文字の形に注意して片仮名を丁寧に書く。(知及技に関する活動)</p> <p>・文字の正しい読み方や書き方を確認する。(思判表力に関する活動)</p> <p>第1時～第6時(「知・技」「主学」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p82のように、姿勢や筆記具の正しい持ち方を確認する。</p> <p>・手本を見て、注意する点を確認する。特にp89の形が似ている片仮名に気を付ける。</p> <p>・なぞり書きまたは視写により正しく書く。</p> <p>・平仮名とは違う長音の表記など、片仮名の特徴に気付く。</p> <p>第7時～第20時(「思・判・表」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p54～59, 86～89で表記している文字や自分や身近な人や物の名前、生活の中で見ることの多い語句や文を正確に書く。</p> <p>・書いた語句や文を見直し、自分や周りの人が読むことができるように、文字の形を整えて書き直す。</p>
	16	<p>(知及技)語のまとまりに気を付けて音読することができる。(中1段階ア(キ))</p> <p>(思判表力)簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。(中1段階C読むことア)</p> <p>(学・人)昔話に興味を持ち、工夫して音読したり演じたりしようとする可以尝试。</p>	<p>(知・技)語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。</p> <p>(思・判・表)時間的な順序を追って七つの場面を理解し、おじいさんの気持ちを具体的に想像している。</p> <p>(主学)進んで昔話の内容に触れ、音読を繰り返しながら工夫したり、動作化などを取り入れて表現しようとしている。</p> <p>【評価資料】音読、学習プリント等記述事項、活動の様子を観察で評価する。</p>	<p>単元6 むかしばなしを楽しもう 「おじいさんと ねずみのおはなし」</p>	<p>・繰り返しや言葉のリズムに気付いたり、役割を決めて音読したりする。(知及技に関する活動)</p> <p>・場面ごとに変わる挿絵も参考にして、場面の様子や登場人物の行動を追い、時間の経過や場面の展開を捉える。(思判表力に関する活動)</p> <p>第1時～第4時(「知・技」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p46～53の範読を聞いて繰り返しや言葉のリズムに気付く。</p> <p>・言葉の響きやリズムなどに注意して、ひとまとまりの語や文として読む。</p> <p>第5時～第16時(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・挿絵を基に、時間の経過や場面の展開を捉える。</p> <p>・七つの場面で、おじいさんの行動を読む。</p> <p>・言葉と挿絵を結びつけて、おじいさんの表情や気持ちを思い浮かべる。</p> <p>・役割を決めて、役になりきって音読する。</p>

14	<p>(知及技) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うことができる。(中1段階ア(オ))</p> <p>(思判表力) 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めることができる。(中1段階A聞くこと・話すことイ)</p> <p>(学・人) 新しい言葉を知って使えるようになったり、適切に表現しようとするすることができる。</p>	<p>(知・技) 丁寧な言葉と普通の言葉を相手や場面に応じて使い分けることに気を付けている。</p> <p>(思・判・表) 相手や目的に応じた話し方を考えながら、伝えたいことを決めている。</p> <p>(主学) 進んで相手に伝えるために、新しい言葉を知って使おうとしたり、適切に表現しようとしている。</p> <p>【評価資料】学習プリント、活動の様子で評価する。</p>	<p>単元7 相手や目的に応じた受け答えをしよう 「かいもの」 「でんわ」</p>	<p>・生活の中で経験する場面で、新しい言葉を知ったり、適切な表現の仕方を身に付ける。</p> <p>・慣用的に用いられている言い方を使ったり、簡単な用件や依頼を伝えたりする。(思判表力に関する活動)</p> <p>第1時～第4時(「知・技」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p16,17の慣用的に用いられている言い方や丁寧な言葉遣いなどについて理解する。</p> <p>・双方のやり取りの場面を設定し、丁寧な言葉で話す。</p> <p>第5時～第14時(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p18, p19を参考にしながら、電話の取り扱いに慣れ、簡単な電話の受け方や掛け方、基本的な会話の仕方を身に付ける。</p> <p>・「誰から誰に」を正確に聞き取って、適切な取次をする。必要となる基本的な応答を行う。</p> <p>・自分の名前を名乗る、相手を確認する、用件を伝えるなどの基本的な話し方に慣れる。</p>
16	<p>(知及技) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くことができる。(中1段階ウ(ウ)①)</p> <p>(思判表力) 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。(中学部1段階B書くこと工)</p> <p>(学・人) 日本語の表記に関心を持ち、文字を書こうとすることができる。</p>	<p>(知・技) 点画相互の位置関係、点画の長さや向きに関する点画相互の関係性に注意して書いている。</p> <p>(思・判・表) 書いた語や語句を丁寧に読み返し、正しいもの書き直そうとしている。</p> <p>(主学) 進んで日本語の音節と文字の関係に関心を持ち、書き表そうとしている。</p>	<p>単元8 まねて書こう 「点と画の種類」 「かん字を よもう・かこう」</p>	<p>・文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、まがり、そり、点」など基本の書き方を確認する。(知及技に関する活動)</p> <p>・文字の正しい読み方や書き方を確認する。(思判表力に関する活動)</p> <p>第1時～第4時(「知・技」「主学」の評価)</p> <p>・点画相互の位置関係、点画の長さや向きに関する点画相互の関係性などを理解する。</p> <p>・手本を見て、注意する点を確認する。</p> <p>・なぞり書きまたは視写により正しく書く。</p> <p>第5時～第16時(「思・判・表」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p90～93で表記している文字や自分や身近な人や物の名前、生活の中で見ることの多い語句や文を正確に書く。</p> <p>・書いた語句や文を見直し、自分や周りの人が読むことができるように、文字の形を整えて書き直す。</p>
12	<p>(知及技) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くことができる。(中1段階ア(I))</p> <p>(思判表力) 日常生活に必要な語句や文章を読み、行動することができる。(中1段階C読むことウ)</p> <p>(学・人) 身のまわりの表記に関心を持ち、読み取ろうとすることができる。</p>	<p>(知・技) 語句相互の意味関係を把握し、意味による語句のまとまりを理解している。</p> <p>(思・判・表) 学校や町、公共施設等で見かける表記が表す意味を考え、行動しようとするすることができる。</p> <p>(主学) 進んで標識や看板の文字に気付き、何を表しているのかを具体的に読み取るようとしている。</p> <p>【評価資料】発表発言、活動の様子を観察で評価する。</p>	<p>単元9 身のまわりの表記を読んでみよう 「かんばんを よもう」 「ローマ字」</p>	<p>・身のまわりにある表記を読み、語句相互の意味関係を理解する。(知及技に関する活動)</p> <p>・文字が書き表している内容を理解し、どのような行動が求められているかを考えたり、実際に行動したりする。(思判表力に関する活動)</p> <p>第1時～第6時(「知・技」の評価)</p> <p>・こくご☆☆☆p44,45の絵や印も参考に、語句のまとまりで意味を把握する。</p> <p>・こくご☆☆☆p109を基に、身近にあるローマ字表記を見つけ、意味による語句のまとまりを捉える。</p> <p>第7時～第12時(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・表記が書き表している内容について、どのような行動が求められているかを考え、発表する。</p> <p>・提示された表記に従い、実際に行動する。</p> <p>・五十音表を用いて、案内板やパンフレットなどにあるローマ字表記を読んでみる。</p> <p>・身のまわりにある表記にはどんなものがあるか調べ、発表する。</p>
留意点 引継ぎ等				

令和5年度 中学部 1年 ( II課程 B類型) 国語科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
4 /140	1年 14名		「こくご☆」等

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等  
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	(知及技) ・日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。(中学部1段階) (思判表力) ・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。(中学部1段階) (学・人) ・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。(中学部1段階)		
------	--	--	--

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	14	(知及技)身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(中1段階ア(7)) (思判表力)自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すことができる。(中1段階A聞くこと・話すことエ) (学・人)相手の話に関心を持ち、知らせたいことを伝えようすることができる。	(知・技)人と関わることで、言葉には、出来事や事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 (思・判・表)話す相手や場面に応じた言葉や態度で表現している。 (主学)積極的に互いの話を聞き、伝え合おうとしている。 【評価資料】発表発言、活動の様子を観察で評価する。	単元1 よく聞いて、伝えよう 「自己紹介をしよう」 「おーい」	・教師や友達との関わりの中で、言葉の働きに気付く。(知及技に関する活動) ・丁寧な言葉や態度で伝える。(思判表力に関する活動) (「知・技」の評価) ・相手に伝わるように、自分の名前を言ったり、好きなものや得意なことなどを挙げたりして、自己紹介をする。 (「思・判・表」「主学」の評価) ・ですます体で話したりお辞儀などを伴ったりして、丁寧に伝える。 ・教師や友達の話静静地に聞く。
	16	(知及技)言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くことができる。(中1段階ア(1)) (思判表力)身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見つけ、その題材に必要な事柄を集めることができる。(小3段階B書くことア) (学・人)事象を捉え、ことばで表すことに興味を示そうとすることができる。	(知・技)語句相互の意味関係を知り、意味による語句のまとまりがあることを理解している。 (思判表力)書くために必要な事柄を思い出したり想像したりして、ノートやカードに書き出したり、言葉を補う写真や絵などの資料を集めたりしてしている。 (主学)進んでことばで表すことに興味を示そうとしている。 【評価資料】発表発言、活動の様子を観察で評価する。	単元2 よく見て、ことばで表そう 「だれが、何をしている」 「ぼくのいちにち」	・教師や友達との関わりの中で、言葉の働きに気付く。(知及技に関する活動) ・興味や関心の度合い、伝えたい思いの強さを手掛かりにして、表したいことを一つに決める。(思判表力に関する活動) (「知・技」の評価) ・それぞれの場面に合った言葉や動作を考える。 ・言葉や関心の度合い、適切な絵カードや画像を選ぶ。 (「思・判・表」「主学」の評価) ・自分で経験したことや経験して思ったことの中から話題を一つ選ぶ。 ・動作を伴って応答したり発表したりする。 ・教師や友達の話や意見を聞いて、自分との共通点や相違点に気付く。
	14	(知及技)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ることができる。(中1段階ウ(1)) (思判表力)絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像することができる。(小3段階C読むことア) (学・人)いろいろな本を手に取り、様々な図書に触れようとする。	(知及技)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ることができる。(中1段階ウ(1)) (思判表力)絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像することができる。(小3段階C読むことア) (学・人)いろいろな本を手に取り、様々な図書に触れようとする。	単元3 本に親しもう 「図書館へいこう」 「まほうのはこ」	・物語や詩、紀行文といった様々な種類の図書に親しむ。(知及技に関する活動) ・展開に即した場面の様子や登場人物の気持ちを想像する。(思判表力に関する活動) (「知・技」「主学」の評価) ・学校図書館を利用し、図書館では種類により配架されていることを知る。 ・物語や詩、紀行文など、様々な種類の本を読んだり読み聞かせをしてもらったりして、読書に親しむ。 (「思・判・表」の評価) ・挿絵なども手掛かりに、場面の違いを把握する。 ・展開に即して場面の様子や登場人物の行動や心情が変化したりしていくことに気付く。
	16	(知及技)発音や声の大きさに気を付けて話すことができる。(中1段階ア(1)) (思判表力)話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めることができる。(中1段階A聞くこと・話すことイ) (学・人)言葉に関心を持ち、当てはまる言葉を探そうとすることができる。	(知・技)相手に伝わるように発声したり、声量に注意して話している。 (思・判・表)身近な出来事や自分が経験したことを想起し、その中から、伝えたいことを選んで決めている。 (主学)進んで教師や友達の話に関心を持ち、話したり応答したりしようとしている。 【評価資料】発表発言、活動の様子を観察で評価する。	単元4 身振りや声に出して伝えよう 「声のものさし」 「がっこうだいすき」	・教師の手本に倣って、発音や声の大きさに気を付けながら話す。(知及技に関する活動) ・興味や関心の度合い、伝えたい思いの強さを手掛かりにして、話したいことを一つに決める。(思判表力に関する活動) (「知・技」「主学」の評価) ・相手に伝わるような発音や声の大きさに気を付けて話す。 (「思・判・表」の評価) ・こくご☆p28~33を言葉でどのように表現するのかを聞く。 ・自分で経験したことや経験して思ったことの中から話題を一つ選ぶ。 ・動作を伴って応答したり発表したりする。 ・教師や友達の話や意見を聞いて、自分との共通点や相違点に気付く。

2 学 期	22	<p>(知及技) 目的に合った筆記具を選び、書くことができる。(小3段階ウ(ウ)㊦)</p> <p>(思判表力) 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり書いたりすることができる。(小2段階B書くことイ)</p> <p>(学・人) 文字に興味を示し、書きたい文字を選んで書こうとすることができる。</p>	<p>(知・技) 線や文字の形を意識しながら、目的に合った筆記具で書いている。</p> <p>(思・判・表) 表したい文字を形作るために、見本をなぞったり書けるようになった文字をマスのなかに書いたりしている。</p> <p>(主学) 意欲的に文字に興味を持ち、書きたい文字を選んで書こうとしている。</p> <p>【評価資料】 記述事項、活動の様子の観察で評価する。</p>	<p>単元5 まねて書こう 「いろいろな線なぞり」 「運筆に親しもう」 「かいてみよう」①</p>	<p>・文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などの書き方の基礎を理解する。(知及技に関する活動)</p> <p>・運筆に気を付けながら、文字の形を意識して書けるように取り組む。(思判表力に関する活動)</p> <p>(「知・技」の評価)</p> <p>・筆記練習や空書き、手添え支援などで、点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などの書き方を理解し覚える。</p> <p>(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・こくご☆p82,83を見て文字に興味を持ち、ひらがなやカタカナ、日常生活でよく使う漢字から、書きたい文字を選ぶ。</p> <p>・文字を書く際に気を付けることを見つけ、文字の形に注意して書く。</p>
	20	<p>(知及技) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(中1段階ウ(ウ)㊦)</p> <p>(思判表力) 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えることができる。(小3段階C読むことイ)</p> <p>(学・人) 季節に関心を持ち、関連することばに親しもうとしている。</p>	<p>(知・技) 我が国には、言葉の響きやリズム、言葉が表す情景を楽しむ文化があることを知り、我が国の言語文化を理解しようとしている。</p> <p>(思・判・表) 場面の様子から時間的経過や場面の前後関係に気付いている。</p> <p>(主学) 進んで季節に関心を持ち、語彙を増やそうとしている。</p>	<p>単元6 ことばを楽しもう 「季節を味わう」 「はる・なつ・あき・ふゆ」</p>	<p>・日本の四季折々で目にする身近にある事柄や事物、生き物などが表現されていることに気づく。(知及技に関する活動)</p> <p>・場面や登場人物の様子が季節の移り変わりに合わせて変化していくことをとらえる。(思判表力に関する活動)</p> <p>(「知・技」の評価)</p> <p>・季節や行事に関わる言葉を発音したり、絵を指し示したりしている。</p> <p>(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・季節の順番を理解し、変化に気付こうとしている。</p>
3 学 期	12	<p>(知及技) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(中1段階ア(ア)㊦)</p> <p>(思判表力) 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めることができる。(中1段階A聞くこと・話すことイ)</p> <p>(学・人) 互いの話に関心を持ち、伝え合おうとすることができる。</p>	<p>(知・技) 人と関わることで、言葉には、出来事や事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。</p> <p>(思・判・表) 身近な出来事や自分が経験したことを想起し、その中から、伝えたいことを選んで決めている。</p> <p>(主学) 積極的に互いの話を聞き、伝え合おうとしている。</p> <p>【評価資料】 発表発言、活動の様子の観察で評価する。</p>	<p>単元7 ことばで伝えよう 「具体物や絵と言葉」 「くまさんくまさん」</p>	<p>・教師や友達との関わりの中で、言葉の働きに気付く。(知及技に関する活動)</p> <p>・興味や関心の度合い、伝えたい思いの強さを手掛かりにして、話したいことを一つに決める。(思判表力に関する活動)</p> <p>(「知・技」の評価)</p> <p>・それぞれの場面に合った言葉や動作を考える。</p> <p>・言葉を聞いて、適切な絵カードや画像を選ぶ。</p> <p>(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・自分で経験したことや経験して思ったことの中から話題を一つ選ぶ。</p> <p>・動作を伴って応答したり発表したりする。</p> <p>・教師や友達の話聞いて、自分との共通点や相違点に気付く。</p>
	14	<p>(知及技) 目的に合った筆記具を選び、書くことができる。(小3段階ウ(ウ)㊦)</p> <p>(思判表力) 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり書いたりすることができる。(小2段階B書くことイ)</p> <p>(学・人) 文字に興味を示し、書きたい文字を選んで書こうとすることができる。</p>	<p>(知・技) 線や文字の形を意識しながら、目的に合った筆記具で書いている。</p> <p>(思・判・表) 表したい文字を形作るために、見本をなぞったり書けるようになった文字をマスのなかに書いたりしている。</p> <p>(主学) 意欲的に文字に興味を持ち、書きたい文字を選んで書こうとしている。</p> <p>【評価資料】 記述事項、活動の様子の観察で評価する。</p>	<p>単元5 まねて書こう 「いろいろな線なぞり」 「運筆に親しもう」 「かいてみよう」②</p>	<p>・文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などの書き方の基礎を理解する。(知及技に関する活動)</p> <p>・運筆に気を付けながら、文字の形を意識して書けるように取り組む。(思判表力に関する活動)</p> <p>(「知・技」の評価)</p> <p>・筆記練習や空書き、手添え支援などで、点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などの書き方を理解し覚える。</p> <p>(「思・判・表」「主学」の評価)</p> <p>・こくご☆p84~88を見て文字に興味を持ち、ひらがなやカタカナ、日常生活でよく使う漢字から、書きたい文字を選ぶ。</p> <p>・文字を書く際に気を付けることを見つけ、文字の形に注意して書く。</p>
	12	<p>(知及技) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ることができる。(小3段階ア(ア)㊦)</p> <p>(思判表力) 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすることができる。(小3段階C読むことウ)</p> <p>(学・人) 言葉に関心を持ち、語彙を豊かにしようとする。</p>	<p>(知・技) 日頃接している人や物などに名前があることを知り、多くの名前を覚えていく。</p> <p>(思・判・表) 日常生活の中で標識などを見つけ、表されている事柄を理解して行動している。</p> <p>(主学) 進んで語や語句の読み方や表す意味に関心を持ち、語彙を増やそうとしている。</p> <p>【評価資料】 発表発言、活動の様子の観察で評価する。</p>	<p>単元9 身のまわりの表記を見つけよう 「しるし」</p>	<p>・身近なことばの平仮名、片仮名、簡単な漢字の読み方を知る。(知及技に関する活動)</p> <p>・表示や案内板などが表す安全や危険、指示を読み、行動を考える。(思判表力に関する活動)</p> <p>(「知・技」「主学」の評価)</p> <p>・身のまわりの人や物の名前を読み方を理解する。</p> <p>(「思・判・表」の評価)</p> <p>・語句のまとまりが表す意味を、絵や印も手掛かりにして考える。</p> <p>・語句のまとまりが表す意味や行動を、選択肢から選んだり実際に行動したりする。</p>
留意点 引継ぎ等	<p>・3学期の保護者面談で、生徒の作品を展示するので2学期までに書き初めなどの作品を制作する。</p> <p>・生徒の実態に応じて、暑中見舞いや年賀状に取り組む。</p>				